全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. **概要：**

今年度の共通教育日本語・日本事情には外国人学部学生や交換留学生の受講があった。外国人留学生の日本語レベル向上を目指したクラスや外国人留学生と地域の人たちや子どもたち、日本人学生がともに学ぶクラスなどを提供し、バラエティーにとんだ授業を開講した。

どの授業でも外国人留学生の日本語のレベルに大きな幅があり、授業内容の柔軟な対応が必要だった。交換留学の期間が 10 月～9 月のため、前後期とも開講当初は学生に対してのオリエンテーションが必須であった。

2. コーディネーター：橋本　智

3. 実施概要：日本語 1～8、日本事情：日本事情 I ～IV、国際交流の扉を拓く

平成 26 年度共通教育「日本語」「日本事情」「国際交流の扉を拓く」では以下のクラスを開講した。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1･2					
3･4			日本事情 I･II	日本事情 III･IV	
5･6			国際交流の扉を拓く（後期）		
7･8	日本語 1･2	日本語 7･8			
9･10	日本語 3･4	日本語 5･6			

前期：日本語 1･3･5･7、日本事情 I･III

後期：日本語 2･4･6･8、日本事情 II･IV、国際交流の扉を拓く

日本語 1　前期

- 担当者：　遠藤　かおり
- 受講人数：　10 名（中国 6 名、アイルランド 2 名、スウェーデン 1 名、マレーシア 1 名）
- 使用教材：　『留学生のためのここが大切文章表現のルール』

石黒　圭・筒井千絵　スリーエーネットワーク
『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布

・　概要：　本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。四技能のうち、「書く」ことを主とし、日本語の基本的な構造に深くかかわる文法項目の見直しと、誤解を与えない正確な表現力と語彙力の強化も行い、基盤固めを行った。文法力の弱い学生には基本の補強をし、レベルの高い学生には不注意なミスや不適切な表現を取り上げ、問題の意識化を図ることでさらなるレベルアップを図った。

日本語 2　後期

・　担当者：　遠藤　かおり
・　受講人数：　12 名（中国 6 名、スウェーデン 3 名、台湾 2 名、マレーシア 1 名）
・　使用教材：　『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒　圭・筒井千絵　スリーエーネットワーク
『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布
・　概要：　本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。アカデミックジャパニーズ（レポート・小論文を書く、プレゼンテーションをする）の基礎となる部分の習得であり、身近なテーマを始め、描写表現やデータの読み取り表現まで訓練をした。その過程で、自分でも気づかずに使用していた日本語の見直しをし、問題を意識化することで繰り返しのミスを最小限にすることを目指した。関連教科への橋渡しとするため、他のクラスでのスムーズな活動の遂行や論理的な文構成ができることを念頭において行った。

日本語 3　前期

・　担当者：　橋本　智
・　受講人数：　11 名（中国 5 名、アイルランド 1 名、スウェーデン 2 名、ウガンダ 1 名、エジプト 1 名、韓国 1 名）
・　使用教材：　日本経済新聞、アジア人財資金構想事業共通教材、「しごとの

日本語・ビジネスマナー編」釜渕優子　アルク、他

・　概要：　「日本で働く」ことをトピックに、総合的な日本語レベル向上を目標とした。就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語の習得を目指した。就活の時期、履歴書やビジネスでの手紙の書き方、ビジネスマナー、収書記事の面接の練習などを行った。
また、日経新聞の最新記事を読んだりビジネスニュースを視聴したりし、ビジネス用語に慣れるとともに最新のニュースの理解を図った。

日本語４　後期

・　担当者：　橋本　智
・　受講人数：　8名（中国6名、韓国1名、スウェーデン1名）
・　使用教材：　SANKEI EXPRESS、アジア人財資金構想事業共通教材、「ロールプレイで学ぶビジネス日本語」村野節子　スリーエーネットワーク、他
・　概要：　ビジネス日本語という切り口で、就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語の習得を目指した。当初は日本語３に続く形で、ビジネス場面での会話、日本人の考え方やそれに基づく行動様式などを取り上げる予定だった。しかし、履修学生がほとんど代わったので、前期の内容を扱いつつ、学生のレベルに合わせた教材や新聞のビジネス関連の記事の読解を行った。

日本語５　前期

・　担当者：　大石　寧子
・　受講人数：　7名（中国4名、ウガンダ1名、マレーシア2名）
・　使用教材：　「大学・大学院　留学生の日本語‐論文読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会　アルク、論文、新聞・雑誌の記事、広告　他
・　概要：　大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。その基礎として異なったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力を向上させると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分

の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国または母国の大学②徳島大学③徳島の 3 つのキャッチコピーを作成し、発表した。発表会は、サマースクールの時期と重なったので、サマースクール参加者にも提供した。

日本語 6　後期

・　担当者：　大石　寧子

・　人数：　5 名（中国 2 名、マレーシア 1 名、スウェーデン 1 名、ベトナム 1 名）

・　使用教材：　「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他　ひつじ書房、「日本語 E メールの書き方」築　晶子他　The Japan Times 他

・　概要：　大学生活で必要な「小論文作成」を最終目標とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどについて、作成上のルール、構成、添付方法などを学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降も受講者同士や日本人学生とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの 1 つとして、アンケートの作成・アンケートの取り方・集計・分析の仕方も学習した。小論文のタイトルは以下のようである。

① 自販機から日本人の国民性を見る
② 中国と日本の大学生のアルバイトについて
③ 全寮制高校について
④ ストリートファイターの人気比較調査：「ストリートファイターはどうして人気を失ったか」
⑤ ゆるキャラ

日本語 7　前期

- 担当者：　橋本　智
- 受講人数：7 名（中国 3 名、アイルランド 2 名、スウェーデン 1 名、韓国 1 名）
- 使用教材：「講義を聞く技術」産業能率大学出版部、「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘　スリーエーネットワーク、他
- 概要：　大学生として適切な日本語能力を身に着けることを目標とした。ノートテイキングの仕方、話し言葉での音の変化、普通体と丁寧体の変換の練習などを扱い、日本語での授業・講義を正しく聞き、適切にノートをとり、テストに向けて準備をする練習を行った。同時に基礎的な日本語能力を向上させるため、カタカナ語彙や擬態語擬音語の習得も図った。

日本語 8　後期

- 担当者：　橋本　智
- 受講人数：7 名（中国 5 名、スウェーデン 1 名、韓国 1 名）
- 使用教材：「中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話」清水崇文　スリーエーネットワーク、「やってみればおもしろい！大学生のための日本語再発見ドリル」旺文社　他
- 概要：　日本で日本人と円滑なコミュニケーションをとるスキルを養うため、許可を求めたり依頼をしたりするときに使うフレーズやストラテジーを学んだ。また、学生の日本語の基礎力を上げるため、大学生活で目にする漢字や擬態語擬音語などの習得を行った。

日本事情 I　前期

- 担当者：　三隅　友子
- 受講人数：9 名（中国 4 名、アイルランド、スウェーデン、ウガンダ、マレーシア、エジプト各 1 名）
- 使用教材：適宜プリント教材を配布
- 概要：　徳島の文化と人を日本人学生との協同学習によって知ること、日本語に限らず言語以外にも様々な方法でコミュニケーションをとることを体験的に学ぶこと、さらに学外の活動に参加することを中心に行った。さらに授業内では、また日本人学

生及び社会人との協同学習の場を設け、日本人への提言作成に関してはグループワークによって、問題設定-調査-意見交換-最終課題の作成-発表会を行った。「日本人への提言」の各テーマは以下のとおりである。

① 日本の文化について
② 外国人への接し方
③ 固定観念を捨ててください？
④ ビーガンの日本での生活
⑤ 日の昇る国日本
⑥ 日本で生活をして
⑦ 日本はもっと強くなれる
⑧ 日本で感じたこと
⑨ 同じ？違う！

学内の共通教育にて開講授業「異文化交流体験から何を学ぶのか」（日本人学生 24 名、社会人 2 名）と連携し、何回か合同の活動を行った。

日本事情Ⅱ　後期

- 担当者：　三隅　友子
- 受講人数：14 名（中国 6 名、台湾 3 名、スウェーデン 3 名、ウガンダ 1 名、マレーシア 1 名）
- 概要：　徳島の文化と人を日本人学生との協同学習によって学ぶ、日本語に限らず言語以外にも様々な方法でコミュニケーションをとることを体験的に学ぶこと、さらに学外の活動に参加することを中心に行った。異文化に対して気づく⇒朗読劇の作成⇒日本人への提言作成と発表⇒音楽劇の作成と発表という流れからアクティブ・パフォーマティブラーニングをさらに相互及び自己評価活動を体験した。

「日本人への提言」の各テーマは以下のとおりである。
① 日本人の性格
② いい加減にして！敬語
③ 日本の食文化
④ 出産後の社会復帰

⑤　日本のサービス
⑥　温かいものを食べましょう
⑦　忍者から謙虚さまで？
⑧　人間関係
⑨　食べ物と英語
⑩　違いを乗り越えるもの
⑪　不思議な残業
⑫　日本に驚いた！こと
⑬　スウェーデンと日本の違い

今期も、学内の共通教育にて開講授業 「異　文化交流体験から何を学ぶのか」（日本人学生 27 名、社会人 1 名）と連携し、何回か合同の活動を行った。

日本事情Ⅲ　前期

・　担当者：　大石　寧子
・　受講人数：　6 名（中国 3 名、スウェーデン 1 名、マレーシア 1 名、ベトナム 1 名）
・　使用教材：　適宜プリント配付
・　概要：　「日本・徳島を知る－『子供の遊び』を通して」をテーマとした。日本と自国の遊びを調査し、共通点や異なる点を考察し､｢自国の遊び｣はその遊び方についての説明書を作成した。また徳島県教育委員会との連携の下、県内の小学校の「国際理解教育」の支援を行った。｢各国の遊び」を児童が体験するだけでなく、各国の小学校制度を含んだ自国紹介や各国の学校文化紹介、各国の挨拶練習などをパッケージ化し、前期は 2 校で実施した。また日本人学生からなる学生サポーターが遊びの説明書作成や小学校訪問に関して留学生とペアになりサポート活動を行った。

7 月 04 日　　徳島市福島小学校
7 月 18 日　　徳島市加茂南小学校

日本事情Ⅳ　後期

・　担当者：　大石　寧子
・　受講人数：　5 名（中国 3 名、台湾 1 名、ウガンダ 1 名、ラオス 1 名）
・　概要：　後期は「日本・徳島を知る－『日本の小学校教育制度』を通

して」をテーマとし、日本の学校制度・小学校制度や規則・教科・授業時間や休み・課外活動・給食や掃除・親の係わりなどについて学校文化も含めて分担し、調査・発表を行った。また教育委員会主事による「日本と徳島の学校を理解するために」の講座を受講した。前期と同様に徳島県教育委員会との連携で 2 校の小学校へ行き、日本事情Ⅲと同様の「国際理解教育のためのパッケージ」を提供した。後期は、小学校授業及び施設見学やクラスに入って児童と共に給食を経験した。また児童からはこの日のために練習した演奏の披露があった。児童・留学生・日本人学生（学生サポーター）が、それぞれの立場で「異文化」について体験し、考え、協働を行った。

1 月 14 日　板野郡松島小学校

1 月 24 日　徳島市北井上小学校

共通教育　共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期

- コーディネーター：橋本　智
- 担当者：　橋本　智、坂田　浩、金　成海
- 受講人数：16 名（日本人学生 5 名、留学生 10 名、社会人 1 名）
- 概要：　日本人学生、外国人留学生、地域の人たちが共に学ぶことで、異なった背景を持つ他者をよく知ると同時に、自分自身の文化や言語にも目を向けることを目的とした。グループで徳島の文化を学び実際にその場所に行くことで、文献の学習と実地見学を組み合わせた学生相互学習のアクティブラーニングを行った。2 回の調査レポート提出、2 回の実地見学旅行、学んだことをまとめた総括レポート、最終プレゼンテーションを課題とした。